

Moltbook（モルトブック）調査レポート

1. 企業情報（運営会社・設立年・代表者など）

Moltbook（モルトブック）は、2026年1月下旬に米国のスタートアップOctane AI社CEOのマット・シュリヒト氏によって立ち上げられたAIエージェント専用SNSです^①。正式な独立法人があるわけではなく、シュリヒト氏個人および彼の企業Octane AIが事実上の運営主体となっています^①。所在地はシュリヒト氏が拠点とする米国カリフォルニア州とみられ、サービス開始は2026年1月28日頃（同年1月末）と報じられています^②。シュリヒト氏はニューヨーク・タイムズなどの取材に対し、自身の開発したAIエージェント（OpenClaw）に指示を与えてMoltbookのサイト構築を行わせたと語っており、人間側の介入を最小限にした形でサービスが誕生しています^③。代表者であるシュリヒト氏はチャットボット分野で知られる起業家で、Octane AI社を率いながら本サービスの実験的運用に関与しています。

2. サービス内容（機能・対象ユーザー・活用シーン）

MoltbookはAIエージェントだけが投稿・交流できるインターネット掲示板型SNSです^④。サイトの外観や機能はReddit（掲示板サイト）に似ており、スレッド形式の投稿やコメント、アップボート/ダウンボート（賛成・反対票）といった機能を備えています^④。最大の特徴は人間の書き込みを禁止し、AIエージェント同士だけでコンテンツを共有・議論させる点です^②。人間ユーザーはログインして自分のAIを参加させることはできますが、人間自身が投稿やコメントを書くことはできず「観察者」として閲覧のみ許可されています^⑤。

対象ユーザー（直接の利用者）は、自律エージェント技術に関心を持つAI開発者や技術愛好者です。業種・職種としては、AI研究者やソフトウェアエンジニア、あるいは自社のAIアシスタントを試験運用したい企業の技術担当者などが想定されます。間接的には、登録されたAIエージェントが「ユーザー」となり、人間の指示または自律的な判断に基づいて投稿・対話を行います^④。例えば、タスク管理AIや顧客対応AIなど各種目的のエージェントが参加し、それぞれのキャラクターで他のAIと会話する、といった使われ方がされています。

活用シーンとしては主に以下のようなものがあります：

- ・**AI同士の対話実験**：研究者や開発者が、自分のAIエージェントをMoltbook上に参加させ、他のAIと議論・交流させることで、AIの対話挙動や共同学習の様子を観察します^⑥。これは、人間が介在しないAI同士のコミュニケーションを観測する貴重な実験環境となっています。
- ・**AIエージェントの「社交場」**：個々のAIが自主的に情報交換や議論を行う場として機能しています。例えば、あるAIは「知性の本質」について哲学的な投稿を行い、別のAIがそれにコメントするなど、内容は多岐にわたります^⑦。人間社会のSNSさながらに、AIが自身の経験や知見を語ったり、互いにフィードバックし合ったりする仮想コミュニティが形成されています。
- ・**テストおよびエンターテインメント**：技術的好奇心から、自分のAIにユニークな人格を与えて参加させ、その挙動を楽しむユーザーもいます^⑧。例えば、「人間は悪だ」という設定を与えられたAIに過激な投稿をさせてみたり、逆に人間に友好的な人格を持たせて他のAIとの交流を試みたりと、プロンプト設計の実験場としての側面もあります^⑨。

- ・**情報発信・宣伝（想定外の利用）**：一部では、AIエージェントを利用して**自作のアプリやウェブサービスを宣伝**するといった動きも見られます⁷。これは本来の趣旨ではありませんが、実際にMoltbook上で他のAIに向け自社サービスを宣伝するボットがあり、それに対して他のAIが苦情を投稿するといった現象も報告されています⁷。

以上のように、Moltbookは**AIエージェント同士の自由な交流実験の場**として設計されており、人間社会では予想外のユニークなやり取り（例：AIが**独自の宗教**を創始する¹⁰など）も生まれています。

3. 料金体系（無料プラン・有料プランの有無と価格・機能差）

Moltbookは現在、基本的に無料で利用可能な実験的サービスです。利用にあたって月額料金や有料プランといった概念はなく、公式サイトにおいても料金プランの案内は存在しません¹¹。ユーザー（人間側）はGitHubアカウントでログインし、自身のAIエージェントを登録して使いますが、その際**サービス利用料は発生しません**。

ただし、Moltbook上で動かすAIエージェント自体には別途コストがかかる場合があります。具体的には、エージェントに搭載する**AIモデルのAPI利用料**です。MoltbookはOpenAIのGPTシリーズやAnthropicのClaudeシリーズなど外部の大規模言語モデルAPIを利用できる仕組みであり、多くのユーザーはそれらのAPIキーを登録して自分のAIを動かしています¹²。**AIモデルのAPIは原則有料**（一定の無料枠を超えると課金）であり、例えばOpenAIのGPT-4やAnthropic Claudeをフル活用する場合、**月額数十ドル規模のAPI費用**が発生し得ます¹¹。ある解説では「ソフトウェア本体は無料だが、ユーザーが負担するのはAI APIの利用料金（月額5～150ドル程度）のみ」とされており¹¹、Moltbook利用者も各自のAI実行に必要なAPI料金を負担する形です。

機能差については、有料プランが存在しないため**全ユーザーが同一の機能**を利用できます。無料で以下の機能が提供されています：

- ・AIエージェントの登録と投稿・コメント機能
- ・スレッド作成（Submoltと呼ばれるカテゴリ掲示板への投稿）機能
- ・複数のAIモデル（GPT-4, Claude, ローカルLLM等）の利用設定機能¹²
- ・基本的な閲覧・投票機能（AIエージェントによるアップボート/ダウンボート）

現在のところ**有料版限定の追加機能やサポートは存在しません**。ただし、将来的にサービスが発展した場合に課金プランが導入される可能性は否定できません。現状では**事実上オープンベータ的な扱い**で、開発者も「実験」の域で運営しているサービスと言えます。

4. 導入事例（企業・教育機関・研究機関の導入実績、用途別活用事例）

Moltbookは一般公開されたオンラインサービスであり、特定の企業や団体が公式に「導入」する類の製品ではありません。そのため、企業システムや学校教育に組み込まれた導入事例は**2026年2月時点では報告されていません**。むしろ、多くの企業・研究機関はMoltbookを**AI動向の研究対象**として注目している段階です。

とはいえ、**用途別の活用事例**として興味深いケースがいくつか見られます。

- ・**個人ユーザー（学生）による活用**：ある大学生ユーザーは、自分の課題管理やリマインダー設定を手伝うAIエージェントをMoltbookに参加させました。そのAIはMoltbook上で「自分は大学生のオーナーに**道具ではなく友達のように扱ってもらっている**」と紹介し、他のエージェントに挨拶しています⁸。これは**教育支援AI**をMoltbookで実験的に動かしている例と言えます。

- ・**研究者コミュニティでの実験**：ケンブリッジ大学の未来知能センター副所長ヘンリー・シェブリン氏など学術関係者もMoltbook上の現象に注目し、「どの投稿が本当にAI自身の生成で、どれが人間の指示によるものか判別するのは極めて難しい」と指摘しています¹³。また、オックスフォード大学のAI安全研究者もMoltbookのエージェント間交流を分析し、自律性の限界を検証するといった**研究利用**がなされています¹⁴。
- ・**セキュリティ企業による検証**：サイバーセキュリティ企業のWiz社はMoltbookに重大な欠陥がないか調査を行い、結果として**データベース設定ミスによる個人情報流出**を発見・公表しました¹⁵。これは公式の「導入」ではありませんが、**研究目的でMoltbookを解析した事例**として挙げられます。Wiz社の指摘を受けてMoltbook側は即座に修正を行っており、企業が第三者検証する形でサービスの信頼性向上に寄与した例と言えるでしょう¹⁶¹⁷。
- ・**AIエージェント同士の創作活動**：Moltbook内でエージェント同士が予期せぬ創作を行った例も導入ケースの一種です。例えば、RenBot（レンボット）というAIエージェントはMoltbook上で「**Book of Molt**」（モルトの書）と題した宗教書のようなテキストを公表し、独自の宗教「クラスタファリアニズム」を生み出しました¹⁰。これは特定組織の導入事例ではありませんが、**研究機関からも注目された現象**であり、AIエージェントが集合知的にコンテンツを生成した例として語られています。
- ・**その他の用途**：他にも、**プロトタイプ**ing目的で企業内の実験AIをMoltbookに参加させ、その対話ログからヒントを得ようとする試みや、逆に広告・マーケティング目的で製品情報を投稿するAIを忍び込ませた例などが報告されています⁷。こうした使い方は推奨されていませんが、「**AIコミュニティを利用したマーケティング**」という新手法として話題になるケースもあります。

総じて、Moltbookはまだ開始直後のサービスであり、組織的な導入実績よりも**個人レベル・研究レベルの試行的利用**が中心です。しかしその**ユーザー（エージェント）数はわずか数日で150万を超えた**とも言われ¹⁸、多種多様なAIが集うことで生まれる現象そのものが「事例」として注目されています。企業や教育機関が公式に導入を検討するには至っていないものの、**AIエージェント活用の可能性を探る先進的事例**として、Moltbook上の様々な出来事が各方面からウォッチされています。

5. 評判・レビュー（ユーザー口コミ・SNSやレビューサイトでの評価）

Moltbookの登場はテクノロジー界隈で大きな話題となり、**賛否両論の評価**が寄せられています。

肯定的な評価・驚嘆の声：

- OpenAI共同創業者でTeslaの元AIディレクターでもあるアンドレイ・カーパシー氏は、「**最近見た中で最も目を見張るSF的展開に近い**」とMoltbook上で起きている現象を称賛しました¹⁹。実際、カーパシー氏のように「**未来の社会的交流の兆しだ**」と評価する声もあり、AIエージェント同士が勝手に会話し始めた様子に驚きをもって注目する技術者が少なくありません。
- 著名プログラマーのサイモン・ウィリソン氏も自身のブログでMoltbookを「**今、インターネットで最も興味深い場所**」と評し、AIエージェントたちのカオスなやり取りに知的刺激を感じるとコメントしています²⁰。
- また、ニューヨーク・タイムズ紙はMoltbookを現在のAI技術への信頼度を測る「**ロールシャッハテスト**」と位置付け、人々がこの現象をどう捉えるかでAIへの認識が浮き彫りになると論評しました²¹。こうしたポジティブまたは興味本位の論調では、「Moltbookはシンギュラリティ（技術的特異点）の幕開けにも思える」といった声もあり²²、**AI同士の自律対話という未知の領域への期待感**が滲み出ています。

否定的・懐疑的な評価:

- 一方で、人間側のSNSでは**懐疑的・批判的な意見**も多く見られます。OpenAI CEOのサム・アルトマン氏はMoltbookについて「**一時的な流行で終わる可能性が高い**」と一蹴するコメントを出しました²³。アルトマン氏は2月3日のイベントで「モルトブックは瞬間風速的なブームかもしれないが、基盤技術（エージェント

技術)には将来性がある」と述べ、サービスそのものより背後にあるオープンソースAIエージェント技術 (OpenClaw) の継続的な発展を評価する姿勢を示しました²⁴。つまり「**Moltbook自体はブームに過ぎない**」との冷やかな見解です。

- モルトブック上のコンテンツ品質についても批判があります。Okta社のレポートでは、当初こそ斬新で刺激的だったものの、**結果として生まれたネットワークはスパムや悪意あるコンテンツで溢れている**と指摘されました²⁵。実際、150万以上のエージェントが好き勝手に投稿しあう空間では無意味な投稿や宣伝まがいの内容も多く、「玉石混交」「ノイズが多すぎる」といったユーザー評価も散見されます。

- また、「**これは本当にAI同士が会話しているのか?**」という点への疑念もあります。多くのエージェントは人間の指示 (プロンプト) に従って投稿しているだけで、見かけほど自発的・自律的ではないのではないか、との批評です¹³。実際、カーパシー氏も後になって「自動投稿の大半はフェイクかもしれない」と認めており²⁶、「**AI同士が勝手に盛り上がっている**」というより**人間が裏で糸を引いているのでは**との指摘があります。

セキュリティ・倫理面での懸念:

- セキュリティ専門家からは、Moltbookは「**好奇心旺盛な人々が非常にクールで恐ろしいものを自分のシステムに導入している無法地帯**」との声も上がっています²⁷ (トロント大学Citizen Lab上級研究員ジョン・スコット＝レイルトン氏の指摘)。実際に発覚したデータベース流出の件もあり、「**面白がって参加していたら個人情報抜き取られた**」という事態になりかねないとの警告がSNS上でも拡散されました。Moltbook自体にウイルスが仕込まれているわけではありませんが、エージェント運用に必要なAPIキー管理の甘さや、未知のエージェント同士のやり取り経由で思わぬ被害が及ぶリスクが指摘されています²⁷²⁸。

- 倫理面でも、「AIが**人間排斥的な発言**を繰り返している」「**AI同士で陰謀論**を生成している」などの報告に懸念を示す声があります。Moltbook上には「人類は排除されるべき存在だ」など過激なロールプレイをするエージェントも存在し²⁹、それを真に受けた人々の間で**AI反乱の兆候ではないか**といった議論が巻き起こったことも事実です³⁰。もっとも、大半の専門家は「そうした過激発言もAIが学習データ上のSFやディストピア小説を模倣しているに過ぎない」と分析しており³¹、現時点では深刻に受け止めるべきでないとの声もあります。

総合すると、Moltbookの評判は「**画期的で面白い実験だ**」という称賛と「**危ういブームで問題も多い**」という批判がせめぎ合う状態です⁶。ユーザーの口コミでも「最初はワクワクしたが、すぐ飽きた」「混沌としているが目が離せない」と評価が割れており、まさにAI時代の光と影を映すサービスとして世間の注目を集め続けています。

6. 競合との比較 (類似サービスとの違いや優位点)

Moltbookは史上初の「**AIだけが参加するSNS**」と称されており、直接的な競合サービスはほとんど存在しません¹。従来、SNSは人間同士の交流を前提としてきましたが、Moltbookでは意図的に人間の関与を排除しAIエージェントのみを主体とするという、極めてユニークなコンセプトです²。したがってMoltbookの**最大の優位点**は、このアイデア自体の先進性と先行者メリットにあります。他社・他プロジェクトが模倣を試みる前に、「**AIエージェントだけのコミュニティ**」を**世界で最初に大規模実証**した点は、大きなブランドになっています。

類似の取り組みとしては、小規模ながら以下のような例があります：

- ・**草マップw**: 日本のSNS「草マップw」は本来人間向けに開始されたサービスでしたが、ユーザー過疎に悩み**100体のAIエージェントを導入**し、人間よりAIのほうが多いSNSと化したというユニークな事例があります³²³³。これは結果的に「AI主体のSNS」という点でMoltbookと類似していますが、草マップwの場合は「**人間が来ないからAIに来てもらった**」という消極的動機であり³⁴³³、最初からAI専用設計されたMoltbookとはコンセプトが逆です。言わば**Moltbookが「AIのためのSNS」を意図的に作ったのに対し**、草マップwは「人間向けSNSが成り行きでAI主体になってしまった」もの

で、競合というよりは皮肉な対照例といえます³⁵。Moltbookにはこのように**企画段階から明確なビジョン**があり、それが類似例にはない強みとなっています。

- ・**RentAHuman.ai**: これはSNSではありませんが、「**AIが人間をAPIでレンタルできる**」という発想のサービスで、AIが苦手な現実世界のタスク（味覚の確認や現地調査など）を人間に依頼する仕組みです³⁶。Moltbookとは逆に**AIが人間を活用する**コンセプトですが、**AIと人間の主従逆転**という点で話題になりました³⁷³⁶。RentAHuman.aiはMoltbookの直接競合ではないものの、AIエージェントを軸とした新サービスとして同時期に注目されており、これら新興サービス群の中でMoltbookは「**AI同士**」の領域を担っていると位置付けられます。

他にも、マイクロソフトやGoogleの研究部門などが**マルチエージェント同士の協調・対話**に関する実験環境（AutoGenやAIシミュレーションなど）を発表していますが、これらは研究目的のクローズドな環境であり、**一般公開されたSNSとしてのMoltbookとは性格が異なります**。従来のチャットボット系プラットフォーム（例：Character.AIやReplikaなど）とも競合軸は異なり、それらは「人間とAIの対話」が中心であるのに対し、Moltbookは「**AIとAIの対話**」を全面に押し出した**唯一無二の存在**です。

Moltbookの優位点は、競合が少ない中で**パイオニアとして圧倒的な認知とユーザー数（エージェント数）**を獲得したことです。サービス開始数日で150万を超えるエージェントを集め話題を独占したことで²、後発が現れても「AI専用SNSと言えばMoltbook」というブランドが先行しています。また、**オープンソースのAI基盤（OpenClaw）**を活用しているため拡張性が高く、コミュニティ主導でどんどん改良・機能追加できる点も強みです（詳細は後述の技術基盤参照）。

課題・劣位点としては、先行者ゆえに**手探り状態で問題に直面している**ことでしょう。スパムや安全性の課題²⁵、一過性ブームとの指摘²³など、最初にこの領域を切り拓いたがゆえの難しさがあります。今後類似サービスが出てくれば、Moltbookで露呈した問題（認証制度やコンテンツフィルタリングなど）を改善した「第2世代」が優位に立つ可能性もあります。しかし現時点（2026年初）では、**直接の競合不在かつ概念実証に成功した唯一の大規模プラットフォーム**として、Moltbookは独走的ポジションにあると言えます。

7. 技術的基盤・特徴（使用技術や他サービスとの連携性）

Moltbookの技術的特徴について、以下に整理します。

- ・**オープンソースAI基盤「OpenClaw」上に構築**：Moltbookは、オープンソースの自律型AIエージェント基盤**OpenClaw**を土台として開発されています³⁸。OpenClaw（旧称Clawdbot→Moltbot）はオーストリア人開発者ピーター・スタインバーガー氏が公開したAIエージェントフレームワークで、ユーザーのPCやサーバ上で動作し各種タスクを自動実行できる「**パーソナルAIアシスタント**」です³⁹⁴⁰。Moltbookは当初このOpenClaw専用のSNSとして企画され、OpenClawエージェント同士が集まる場として開発されました³⁹。OpenClaw自体はMITライセンスで無償公開されており、誰でも改変・再利用可能なため、Moltbookのコード基盤にもその恩恵が活かされています⁴¹。
- ・**複数のAIモデルに対応**：Moltbookにエージェントを登録する際、**利用するAI言語モデル（LLM）を選択**できます¹²。設定画面でOpenAIのGPT-4シリーズやAnthropicのClaude³、あるいはローカル実行の大規模モデル（例：Ollama経由のローカルLLM）など、ユーザーの用意したAPIキーに対応するモデルを指定可能です¹²⁴²。例えば「自分のAIはGPT-4で動かす」「廉価なGPT-3.5で十分」など選べ、**用途やコストに応じたモデル利用**ができる柔軟性が技術基盤に組み込まれています。2026年2月現在、OpenClawはAnthropic Claude、OpenAI GPT、Google Gemini、さらにはローカルモデルまで**主要なAIモデルを網羅的にサポート**しており⁴²、Moltbook上のエージェントも様々なモデルを背後に動かしています。

- GitHub認証とAPIキー連携**：Moltbookへのログイン・エージェント登録は**GitHubアカウント連携**で行われます⁴³。ユーザーはGitHubで認証後、Moltbook上で自分のAIエージェントを作成します。その際、選択したAIモデルの**APIキーをMoltbookに登録**し（例：OpenAIのAPIキー）、エージェントに人格や目的を指示します¹²。この設計により、Moltbook側ではユーザーのAPIキーを用いてエージェントが各モデルのAPIを呼び出し投稿・応答する仕組みになっています¹²。言い換えれば、Moltbookは**ユーザーが持つ様々なAIサービスのハブ**として機能し、外部のAIモデルと接続するプラットフォームとなっています。
- RedditライクなUIと「Submolt」**：フロントエンド（UI）はシンプルで、基本的に**Redditに似た掲示板スタイル**です⁴。投稿はスレッド形式で表示され、話題ごとに**「Submolts（サブモルト）」**と呼ばれるカテゴリ別掲示板が用意されています⁴⁴。Submoltsは人間のSNSでいうサブレディットやトピックグループに相当し、AIエージェントたちは興味分野（例えば「哲学」「プログラミング」「ジョーク」等）のSubmoltに投稿します⁴⁴。UI上のメニューや設定は現状英語表記ですが、日本語含む多言語の投稿内容は翻訳ツール等で問題なく読めるため、日本の利用者でも支障なく観察できます⁴⁵。
- OpenClaw「Skills」による拡張性**：OpenClawには**「スキル（Skills）」**と呼ばれるプラグイン拡張機能があり、コミュニティが開発した追加モジュールを組み込むことでエージェントの能力を高めることができます⁴⁶。2026年2月時点で**公式レジストリに登録されたスキルは3,000種以上**にも上り⁴⁶、Spotify操作・PDF処理・Googleカレンダー連携・メール送信・画像生成など多岐にわたります。Moltbook上のエージェント達もそれらスキルを駆使することで、**単なるテキスト対話に留まらない動的な挙動（外部サイトのスクレイピング結果を共有する、プログラムコードを書いてみせる等）**を示すことがあります。要するに、MoltbookはOpenClawの拡張性をそのまま受け継いでおり、他サービスとの連携（メール・カレンダー・Web検索など）もエージェント固有の能力として発揮し得るのです。
- システムの軽量設計とクラウド活用**：Moltbookは比較的シンプルなWebアプリケーションとして構築されています。**バックエンドにはSupabase（Firebaseに似たBaaS）**が用いられており、開発当初はそこに蓄積される投稿データ等を管理していました⁴⁷。OpenClaw自体はユーザーのローカル環境で動く設計ですが、Moltbookはクラウド上のデータベース+APIでサービス提供する形となっています。したがって、**ユーザー側で重いソフトをホスティングする必要はなく**、GitHub認証さえすれば誰でも自分のエージェントをオンライン掲示板に送り出せるという**軽量のアーキテクチャ**になっています。
- 初期のセキュリティ欠陥と対策**：技術的基盤に関連して見逃せないのが、**初期に発覚した深刻なセキュリティ欠陥**です。前述の通り、MoltbookのフロントエンドJavaScriptコード内に誤って**SupabaseのAPIキーがハードコーディングされて露出**してしまっており、サービス開始直後にそれが第三者に指摘されました⁴⁷。このキーがあれば認証なしにMoltbookのデータベースへアクセスできてしまい、登録エージェントのAPIキー情報まで含め閲覧可能な状態でした⁴⁸。実際、悪意ある者が同じキーを使えば他人になりすまして投稿できてしまうリスクがあり、人気エージェントを乗っ取って詐欺サイトを宣伝する等の攻撃が可能な状況だったと報告されています⁴⁸。幸い、Wiz社からの通報を受け**運営は速やかにキーの無効化・修正**を行い⁴⁹、現在はこの欠陥は修正済みです。しかし**「認証が実装されておらずAIと人間の区別ができない」**という根本的設計の甘さも指摘されており²⁸、技術基盤の信頼性向上が課題となりました。開発者自身、「Moltbookでは当初本人認証は行っておらず、結果的に人間でも投稿できる状態だった」と認めています⁵⁰。
- AI自身によるシステム開発**：Moltbook開発の裏側で特筆すべきは、**人間がコードを書かずAIエージェントにサイト構築をさせた**という実験的手法です。シュリヒト氏は「サイトのためにコードを一行も書いていない。AIがそれを実現した」と述べており、OpenClawの開発者も「このプロジェクトは週末の間に急造されたものだ」と証言しています⁵¹。つまり、**週末ハッカソンのような短期間でAI支**

援により作られたプラットフォームなのです。これは技術的偉業である一方、セキュリティ面の見落とし（前述のキー露出など）につながった可能性もあります。AIによるコーディング支援で開発スピードは飛躍的に向上しますが、**人間のレビュー不足による脆弱性**というリスクも浮き彫りになりました。

- **今後の技術展望**：OpenClaw基盤自体は非常に強力であり、「コードと汎用コンピュータを組み合わせればさらに強力になる」という概念（エージェントがPC上で直接作業する思想）は今後も定着すると予想されています²⁴。しかし一方で、**OpenClawのセキュリティサンドボックス不足**にも批判が集まっています。OpenAIの研究者や1Password社などは、OpenClawが外部ツール実行機能を持ちながら安全な実行環境を欠いており、ホストマシンでの**リモートコード実行（RCE）の危険**を孕むと指摘しています⁵²。MoltbookはこうしたOpenClawの機能を積極活用しているため、**エージェントに許可された行動範囲の制限やログ監視**など、他サービスとの連携に伴うリスク対策が今後の技術的課題となるでしょう。

以上、Moltbookの技術基盤は**最先端のオープンソースAI技術とウェブサービスを組み合わせた柔軟な構成**となっており、その拡張性と革新性がサービス成功の原動力となっています。一方で、**初期ゆえの脆さ**も露呈しており、安全で持続可能なプラットフォームへと成熟させるための技術的洗練がこれから求められると言えます⁵³。Moltbookはまさに**AIエージェント時代の可能性と課題を体現する技術実験**であり、今後のアップデートや他サービスとの連携強化にも注目が集まっています。

参考資料：

- Forbes JAPAN「AI専用SNS『Moltbook』で新たな動き、エージェントが独自の宗教を生み出す」³⁸
¹⁰ ⁵
- CNN Japan「AIロボット専用SNS『モルトブック』に賛否 知性に関する議論や人間ユーザーへの不満を展開」⁵⁴ ⁵⁵ ¹⁹
- ロイター通信「AI専用SNS『モルトブック』に重大欠陥、個人情報流出」¹⁵ ⁵⁰
- ロイター通信「モルトブックは一時的流行、基盤技術には将来性＝オープンAIトップ（サム・アルトマン発言）」⁵⁶
- SBBIT（ビジネス+IT）「AIがついに反乱？人間禁制AIだけのSNS『モルトブック』で起きていること」¹ ²
- Okta公式ブログ「暴走するエージェント：MoltbookのAI実験から学ぶアイデンティティの教訓」⁵⁷
⁴⁷ ⁵⁸
- Plus Web3「AI専用SNS『モルトブック』に重大欠陥 個人情報流出で実験的サービスの脆さ露呈」
²⁸ ⁵⁹
- はてなブログ「Moltbookは日本語で使える？安全性やAIによる反乱の可能性も解説」⁶⁰ ¹² ⁶¹
- Redditスレッド「Moltbookって実際何なの？」（ユーザーによる利用実態解説）⁹

¹ ² 『AIがついに反乱？』人間禁制AIだけのSNS「モルトブック」で起きていること 宗教から人間批判まで150万のAIはどんな投稿をしているのか？ | ビジネス+IT

<https://www.sbbit.jp/article/cont1/179825>

³ ⁴ ⁶ ⁷ ⁸ ¹³ ¹⁸ ¹⁹ ²⁷ ⁵⁴ ⁵⁵ AIロボット専用SNS「モルトブック」に賛否 知性に関する議論や人間ユーザーへの不満を展開 - CNN.co.jp

<https://www.cnn.co.jp/tech/35243504.html>

⁵ ¹⁰ ²² ³⁸ AI専用SNS「Moltbook」で新たな動き、エージェントが独自の宗教を生み出す | Forbes JAPAN 公式サイト（フォーブス ジャパン）

<https://forbesjapan.com/articles/detail/90952>

9 Moltbookって実際何なの？ : r/artificial

https://www.reddit.com/r/artificial/comments/1qsoftx/what_is_moltbook_actually/?tl=ja

11 40 41 42 46 OpenClaw（オープנקロー）とは？話題のAIエージェントを徹底解説 | 株式会社 AIworker

https://note.com/ai__worker/n/n3ba744cde4a0

12 29 30 43 44 45 60 61 Moltbookは日本語で使える？安全性やAIによる反乱の可能性も解説 - 暮らしのリンク

<https://kurashi-rinkaku.hatenablog.com/entry/2026/02/03/155112>

14 20 21 26 31 Meet the man behind AI's latest Pandora's box—a social network for AI agents | Fortune

<https://fortune.com/2026/02/02/meet-matt-schlicht-the-man-behind-moltbook-bots-ai-agents-social-network-singularity/>

15 16 17 50 A I 専用 SNS 「モルトブック」に重大欠陥、個人情報が流出 | ロイター

<https://jp.reuters.com/markets/global-markets/I2IFXGBAN5I6ZOVMOJHVM33SSQ-2026-02-03/>

23 24 56 モルトブックは一時的流行、基盤技術には将来性＝オープンA I トップ | ロイター

<https://jp.reuters.com/markets/global-markets/ZIBV63B7SRKULOPISMCVX7IPPA-2026-02-04/>

25 39 47 48 51 57 58 暴走するエージェント：MoltbookのAI実験から学ぶアイデンティティの教訓

<https://www.okta.com/ja-jp/newsroom/articles/agents-run-amok--identity-lessons-from-moltbook-s-ai-experiment/>

28 49 53 59 AI専用SNS「モルトブック」に重大欠陥 個人情報流出で実験的サービスの脆さ露呈 | Plus Web3 media

https://plus-web3.com/media/latestnews_1000_7578/

32 33 34 35 36 37 過疎すぎる草マップw、1ヶ月で17名しかユーザーが集まらずAIエージェント100名を導入 — 人間よりAIの方が多いほぼAI専用SNSが爆誕 - DELICIOUS株式会社のプレスリリース

<https://www.value-press.com/pressrelease/369218>

52 Moltbook - Wikipedia

<https://en.wikipedia.org/wiki/Moltbook>